講演



生涯を通じた歯科健診 ～自治体の取組～

橋野 恵衣　大阪大学歯学部同窓会

国民皆歯科健診というフレーズをご存知でしょうか。これは政府の「骨太の方針2022」に初めて記載されたもので、当時は歯科健診が義務化されるのかと（少し）話題になりました。しかし現状のところ、義務化ではなく、国民が生涯を通じて歯科健診を受けやすい環境づくりを進める取組です。「口から考える未病と健康づくり」のためには、歯科健診や定期的な歯科受診、そしてかかりつけ歯科医が欠かせません。本講演では、生涯を通じた歯科健診、いわゆる国民皆歯科健診の実現に向けた国や自治体の動きをご紹介します。



AIで見えてくる口の未病と健康づくり

山口 哲　大阪大学大学院歯学研究科　AI研究ユニット　教授

AI（人工知能）は、たくさんのデータから特徴を学び、画像や検査情報に潜む小さな変化を見つけることが得意です。歯科でも、むし歯や歯周病の発見、診断支援、将来のリスク予測などへの活用が進んでいます。本講演では、AIのしくみをやさしく紹介しながら、病気になる前の「口の未病」に気づき、日々のケアや生活習慣の見直しにつなげる可能性を考えます。AIを上手に活用し、口から全身の健康づくりを始めるヒントをお伝えします。

司会



豊澤 悟　大阪大学大学院歯学研究科 評議員

今回、司会を担当させていただきます豊澤と申します。年に一度、大阪大学歯学部が秋にお届けする市民フォーラムも、今年で23回目を迎えることになります。今回は、「口から考える未病と健康づくり」をテーマに、歯学研究や治療現場の最前線でご活躍中の5人の先生方にお話をしていただきます。病気になる前の状態の「口の未病」に目を向けて、口とからだの健康を保つヒントにして頂ければ幸いです。最後までゆっくりとお楽しみ下さい。

大阪大学大学院歯学研究科
第23回 市民フォーラム

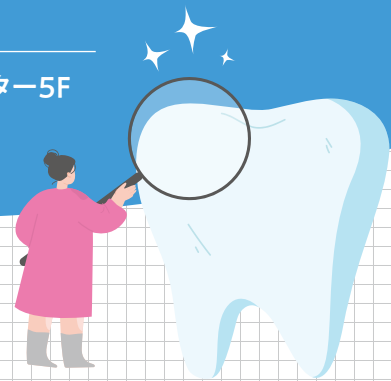
口から考える未病と健康づくり



2026.11.7土

13:00-16:00

千里ライフサイエンスセンター5F
サイエンスホール



Program

司会進行　豊澤　悟　大阪大学大学院歯学研究科　評議員

13:00～13:10　開会のご挨拶
仲野　和彦
大阪大学大学院歯学研究科長・歯学部長、大阪大学歯学会会長

13:10～13:30　「口の未病を科学する
ーリスクからみる予防歯科の最前線ー」
竹内　洋輝　予防歯科　講師

13:30～13:50　「オーラルフレイルを考える」
谷村　妙子　看護部　歯科衛生士

13:50～14:10　「口の中の微生物は敵?それとも味方?」
広瀬　雄二郎　微生物学講座　准教授

14:10～14:25　休憩（15分）

14:25～14:45　「生涯を通じた歯科健診
～自治体の取組～」
橋野　恵衣　大阪大学歯学部同窓会

14:45～15:05　「AIで見えてくる口の未病と健康づくり」
山口　哲　AI研究ユニット　教授

15:05～15:20　休憩（15分）

15:20～15:50　総合討論（30分）

15:50～16:00　閉会のご挨拶
山城　隆　大阪大学歯学部附属病院　病院長

ご挨拶

口から始める、毎日の未病と健康づくり



仲野 和彦
大阪大学大学院歯学研究科長・歯学部長・大阪大学歯学会長

第23回市民フォーラムにお越しいただき、ありがとうございます。今回のテーマは「口から考える 未病と健康づくり」です。「未病」とは、健康と病気を二つに分けるのではなく、その間の小さな変化に目を向け、病気になる前から健康を守っていこうという考え方です。お口は、食べる、話すといった日常生活を支えるだけでなく、全身の健康とも深く関わっています。お口の変化に早く気づき、適切に対応することは、生涯にわたる健康づくりにつながります。

本日は、「予防歯科」「オーラルフレイル」「口腔内の微生物」「生涯を通じた歯科健診」そして「AIを活用した健康づくり」という五つの視点から、専門家がお話しします。いずれも、「病気を治す」だけではなく、「病気を防ぎ、健康を維持する」という、これからの歯科医療を考える上で大切なテーマです。

大阪大学大学院歯学研究科は5部門23講座で構成され、それぞれの専門性を生かしながら、歯科医学の新たな可能性を追究しています。最先端の研究成果や最新の知見を社会に還元し、地域の皆さまの健康に役立てることも大切な使命です。これは、大阪大学が掲げる「地域に生き世界に伸びる―Live Locally, Grow Globally―」という理念にもつながっています。

本日のフォーラムが、ご自身やご家族のお口と健康を見つめ直し、明日からの健康づくりを考えるきっかけとなれば幸いです。講演についてご質問などありましたら、ぜひお気軽にお寄せください。

未病と健康づくり



山城 隆
大阪大学歯学部附属病院
病院長

皆様、本日はお忙しい中、「口から考える 未病と健康づくり」市民フォーラムにご参加いただき、ありがとうございます。大阪大学歯学部附属病院は、地域の皆様の口腔の健康を守るため、日々の診療とともに、歯科医療に関する新しい知見を広く発信してまいりました。

今回のテーマは「口から考える未病と健康づくり」です。「未病」とは、病気になってから治すだけではなく、その前の小さな変化に気づき、より健康な状態を保っていこうという考え方です。口の中でも、むし歯や歯周病、噛む・飲み込むといった機能の低下は、痛みや不自由を感じる前から少しずつ始まっていることがあります。こうした変化に早く気づき、日々の生活の中で予防していくことは、口の健康だけでなく、全身の健康を守ることにもつながります。

本日は、毎日の口の健康づくりから、全身の健康とのつながり、そしてこれからの新しい医療や健康づくりまで、幅広い視点からお話しいただきます。身近な話題から最新の知見まで、皆様の生活に役立つ内容をわかりやすくご紹介いただけるものと思います。

今日のお話が、ご自身の口や体の小さな変化に目を向け、これからの健康づくりを考えるきっかけとなれば幸いです。どうぞ肩の力を抜いて、最後まで楽しんでお聴きください。

講演



口の未病を科学する ーリスクからみる予防歯科の最前線ー

竹内 洋輝　大阪大学歯学部附属病院　予防歯科　講師

「病気ではないけれど、健康とも言い切れない」状態を未病といいます。むし歯や歯周病も、全身の状態、唾液、歯周病菌、生活習慣など、さまざまなリスクが高まり、症状はなくとも未病になっている場合が多々あります。

本講演では、糖尿病と歯周病、唾液とう蝕などを例に、検査による「口のリスクの見える化」と大阪大学予防歯科で進めている研究をご紹介します。さらに、今日からできる工夫を通して、病気になる前から口の健康を守る方法を一緒に考えたいと思います。



オーラルフレイルを考える

谷村 妙子　大阪大学歯学部附属病院　看護部　歯科衛生士

「以前より食事量が減った」「むせる、食べこぼすことがある」「話す機会が減った」など、小さな変化はありませんか？それは、口の機能が少しずつ衰える「オーラルフレイル」のサインかもしれません。オーラルフレイルは、早めに気づき、対策をすることで改善が期待できます。本講演では、歯科衛生士の立場から、口の健康が全身の健康や毎日の生活にどうつながるのかを分かりやすくお伝えします。今日からできるお口の体操や、楽しく食べて話すためのポイントを一緒に学びましょう。



口の中の微生物は敵？それとも味方？

広瀬 雄二郎　大阪大学大学院歯学研究科　微生物学講座　准教授

唾液1mLあたり約1億個、プラーク1gあたり約1000億個もの細菌が共存しています。口の中は、湿潤で温度も高めに保たれ、食べ物由来の栄養も豊富なため、微生物が増殖しやすい環境です。微生物をうまくコントロールできなければ、むし歯や歯周病だけでなく、肺炎などの感染症のリスクも高まります。しかし、敵に思える微生物も、状況によっては私たちに恩恵をもたらすことがあります。本講演では、病原細菌学者の視点から、口の微生物を味方につけ、健康づくりに活かすための考え方を紹介します。